

# KÄRCHER

ケルヒャーニュース  
Vol.23

# NEWS



ケルヒャー ジャパンニュース  
page. 3

プロダクトニュース  
page. 4

SDGsの取り組み  
page. 6

ケルヒャー ワールドニュース  
page. 8

お掃除コラム  
page. 10

## ご挨拶

平素よりケルヒャー ジャパンをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

代表取締役社長のマーク・ヴァン・インゲルゲムでございます。

本年は国際情勢が不安定で、欧米では物価上昇圧力の強まりから消費が鈍化しました。日本においても原材料価格の高騰から物価高が叫ばれるなど、日本社会全体で個人消費が低迷するなど、停滞感のある1年となりました。

清掃業界については、新型コロナウイルス感染症対策により、新たな生活様式が定着し、高い衛生管理意識が当たり前となり、清掃に求められる価値が、より安心・安全で、健康な暮らしの実現に変わりつつあると感じております。

業務用分野では清掃業界の長年の課題であった労働力不足の一助となるロボット掃除機の導入に向け躍進した年となりました。その他にも環境に配慮したバッテリータイプの製品を多く導入し、SDGs達成に寄与する商品を市場に投入できました。



家庭用分野では水冷式サイレントモデルの高圧洗浄機のラインアップを一新し、日本の市場ニーズにあわせて改良を加えたモデルとして発売しました。他にもインドア向けの家庭用製品を市場に投入し、室内衛生における新たな清掃スタイルを提供できたと考えています。

社会が大きく変化していく中、これからもケルヒャー ジャパンにご期待いただけるよう、今一度初心に返って「カスタマーセントリック（お客様中心主義）」に基づいた経営を実践すべく、世の中に目を向けて、変化やニーズを的確にとらえ、人々が安心・安全に暮らせる社会の実現を清掃の観点からサポートします。

今後とも、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長  
マーク・ヴァン・インゲルゲム

## ▶ Thank Your Cleaner Day 2022を 全拠点で開催



ケルヒャー ジャパンは、日頃からさまざまな施設の清掃や衛生環境の維持に尽力していただいている清掃従事者の方々に感謝を伝える活動として『Thank Your Cleaner Day 2022』を開催しました。

10月19日(水)から31日(月)の期間中、ケルヒャー ジャパンの国内全16営業拠点にて『Thank Your Cleaner Day』セレモニーを開催し、清掃していただいている方々に感謝の気持ちを伝えるプレゼントを贈りました。また横浜本社では、『Thank Your Cleaner Day』ロゴ入りケーキを進呈しました。



## ▶ 4製品が、2022年度 グッドデザイン賞を受賞



GOOD DESIGN  
AWARD 2022

ケルヒャー ジャパンの4製品が「2022年度グッドデザイン賞」を受賞しました。ケルヒャー ジャパンの受賞は、今回で3年連続となります。受賞したのは、家庭用の高圧洗浄機水冷式サイレントシリーズです。9年ぶりのリニューアルでデザインを一新し、新機能を多数搭載しています。業務用では、カーペット清掃に機能を特化したカーペットバキュームスイーパー『CVS 65/1 Bp』、システムティックにデザインされたビルメンテナンス用の清掃用トローリー『フレクソメイト』、迫力と存在感が際立つ床洗浄ロボット『KIRA B 50』が受賞しました。



コードレスカーペット  
バキュームスイーパー  
CVS 65/1 Bp



ロボット自動床洗浄機  
KIRA B 50



マルチタスクツール  
FlexoMate Trolleys



高圧洗浄機  
水冷式サイレントシリーズ

業務用製品

## 革新的に進化を遂げた新製品が 清掃効率の向上と負担軽減に貢献



マルチタスクツール  
FlexoMate Trolleys



コードレス  
カーペットリンスクリーナー  
Puzzi 9/1 Bp



搭乗式床洗浄機  
B 110 R Bp



コードレス背負式クリーナー  
BVL 5/1 Bp



アップライト  
クリーナー  
CV 30/1 Plus

コードレスカーペット  
バキュームスーパード  
CVS 65/1 Bp



冷水高圧洗浄機  
(エンジンタイプ)  
HD 7/20 G Classic



ロボット自動床洗浄機  
KIRA B 50

2022年、ケルヒャー ジャパンは革新的に進化した業務用製品を発売しました。

4月には、世界で初めてEPP(発泡ポリプロピレン)を採用した超軽量のコードレス背負式クリーナー「BVL 5/1 Bp」を発売しました。また5月には、農畜産業や建築業界をターゲットにしたハイパワーモデルのエンジン式冷水高圧洗浄機「HD 7/20 G Classic」、さらに6月には、業界最高クラスの軽量設計で中規模～大規模な建物の効率的な清掃を可能にしたコードレスカーペットバキュームスーパード「CVS 65/1 Bp」を発売しました。11月にはワイドな作業幅と大容量の清水タンクを備えた搭乗式床洗浄機「B 110 R Bp」、さらに12月には3製品を同時発売。清掃ツールを一台に搭載できるマルチタスクツール「FlexoMate Trolleys」、ケルヒャー初のコードレスタイプのカーペットリンスクリーナー「Puzzi 9/1 Bp」、ロングセラーモデルをお客様の声を反映して改良した「CV 30/1 Plus」が登場しました。

2023年には、次世代ロボット自動床洗浄機「KIRA B 50」などを発売予定です。





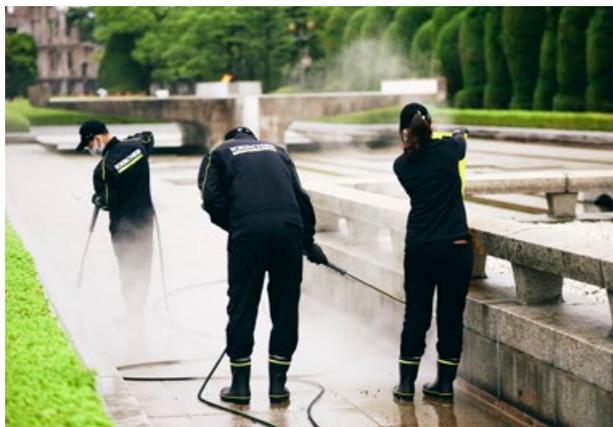
## ▶ 広島「平和記念公園」 洗浄プロジェクト



ケルヒャーグループでは、世界的建造物の再生・洗浄作業を通して重要な歴史を後世に継承する「クリーニングプロジェクト」を推進しています。

6月22日には、広島市と、ケルヒャー ジャパンがクラブスポンサーを務めるプロサッカークラブ・サンフレッチェ広島の協力のもと、世界恒久平和への思いを伝え続ける「平和記念公園」のクリーニング活動を実施しました。

クリーニング活動を行ったのは、公園内の「平和の池」と「祈りの泉」です。「平和の池」では池の底面や壁面、平和の灯の台座などを重点的に洗浄し、長い年月をかけて固まった汚れを取り除きました。「祈りの泉」では、泉の水を吸い出して高圧洗浄に使用するなど、環境にも配慮した洗浄が行われました。



## ▶ 温水高圧洗浄機で 除草や害虫駆除の 実証実験を開始

温水高圧洗浄機から吐出される高温水には、人体に影響を及ぼす害虫を駆除する効果が期待されています。そこでケルヒャー ジャパンは、山中に生息する吸血性の「ヤマビル」の駆除効果を調べる実証実験を開始しました。一般的にヤマビルの駆除には薬剤などが使用されますが、温水高圧洗浄機による新手法が確立すれば、薬剤を使用せず環境や人体にやさしい駆除が可能になります。他にも、温水高圧洗浄機を使用した除草効果を検証する実証実験も継続して行っており、温水高圧洗浄機の多方面にわたる活躍が期待されています。



特定外来生物「ツルヒヨドリ」を温水除草（2011年／沖縄県）

## ▶ アートな装いに包まれた パリ・オベリスク

フランス・パリのコンコルド広場にそびえるオベリスク。3300年前のエジプトで建造され、200年前にフランスに贈呈された歴史的建造物ですが、ケルヒャー主導のもと、その修復工事が行われました。

工事期間中に足組を覆った芸術的なターポリンは、パリの空をイメージしたグレーの背景と、ケルヒャーの企業カラーであり、エジプトも連想させる黄色を組み合わせた、壮大なモニュメントとなりました。四方にはオベリスクにまつわる4名の歴史的人物が描かれ、雄大な歴史を想起させます。ターポリンの制作を手掛けたデザイナーのジョナサン・ソベル氏は「この作品では、歴史も場所も異なる人々の『物語』を表現しました」と述べています。





## ▶ 私たちにもできる水・衛生の支援： ブルンジ飲料水プロジェクト

世界自然保護基金とケルヒャーは、「Clean Water for the World」イニシアチブを通じて、新興国や発展途上国の水質改善に取り組んでいます。今回、東アフリカのブルンジで行われたプロジェクトでは、ケルヒャーの小型水処理システム「WPC 120 UF」を導入し、排水処理から飲料水に至るまでの、初の包括的な支援に成功しました。これは従来

のような断片的支援ではなく、製品管理、技術知見、物流、経営のあらゆる視点を交えたサステナブルな支援であり、現地関係者との連携のもと、ブルンジの事情に即した持続可能な水インフラを構築しています。ケルヒャーは今後も取り組みを拡大し、各国に同様の水システムを提供していく予定です。



# 新時代の衛生対策と これからの展望

今般の新型コロナウイルスの感染拡大により、公共の場における衛生管理の役割は大きく変化しました。外食産業から政府機関、学校、オフィスに至るまで、公共施設は清掃規則や手順の見直しを迫られており、新たなスタンダードの確立が今後の重要課題となるでしょう。これらの解決策としては、清掃方式の標準化や、デジタルソリューションを用いた清掃員のトレーニング、新たな衛生対策の考案等が挙げられます。

## 変化する清掃の世界

ケルヒヤーのスペシャルセールス&コンサルティングサービス部門でシニアディレクターを務めるダニエル・マイヤーは、昨今の公共施設における衛生管理の変化について、次のように述べています。「最も顕著なのは、新しい清掃要件の変化です。レジャレストランの席に仕切りやパーティションを設置するなどの感染防止対策が確立されましたが、これらの設置物の清掃も必要になりました」。また衛生対策のアップデートを求める声に応えるため、衛生認証を取得する建物管理者が増加しています。

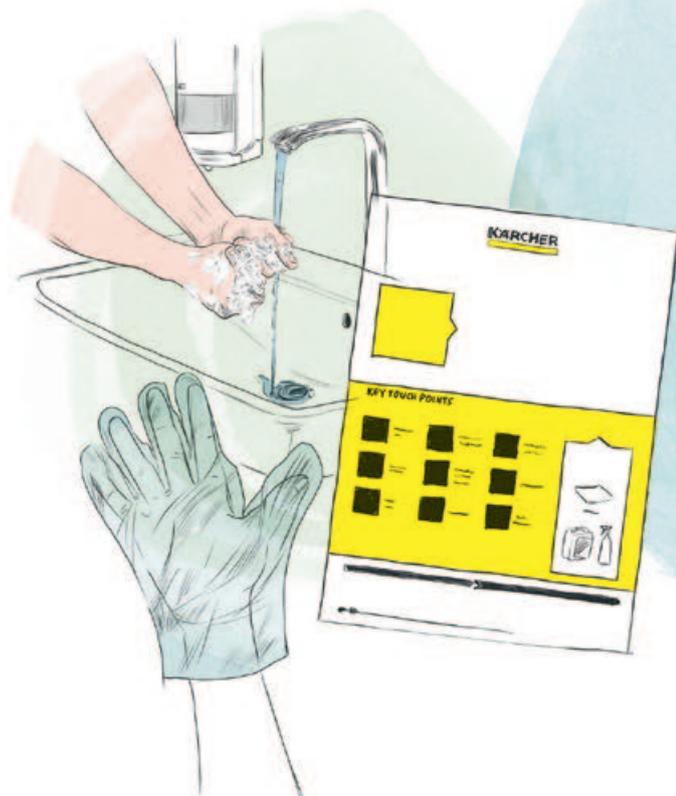
## 「100%清潔」は実現不可能？

病原菌等の移動・感染リスクが常に存在する環境では、その温床や宿主の除去が重要であり、「適当な消毒」よりも「適切な清掃」の方が有効です。このことについてマイヤーは次のように述べます。「建物や公共スペースの清掃では『場所』を意識することが極めて重要です。汚れている場所や人が汚れに触れる場所、病原菌等の移動経路はどこかを考える必要があります」。これを念頭に置き、正しい清掃方法や器具を採用する必要があります。例えば表面の清掃には、クリーニングクロスを折り畳みながら拭くことが推奨されます。「つまり、毎回クロスの綺麗な面を使うということ

です。綺麗な面を使い切ったら新しいクロスに交換すれば、別の場所に病原菌等を広げることなく除去できます。ただし病原菌等は清掃だけでは死滅しないので、適切な温度、薬剤、機器で洗浄を行ってください。そうすれば、消毒剤の使用を建物の重要な箇所だけに絞ることができます」。

## 衛生対策を確立するには

建物内の衛生状態を改善するには、清掃手法や技術の分析が有効です。ケルヒヤーも、エカテリ





ンブルグ（ロシア）の教育省に対して同様のプロジェクトを実施しており、教育施設における衛生状態の分析と対策を提案しています。

ケルヒャーの清掃コンサルティングサービス部門に所属する、清掃・衛生専門家のイェンス・クーンは次のように述べます。「清掃手順を最適化して清掃員にトレーニングを施せば、清掃品質は自ずと改善し、汚れや細菌が減少するため健康リスクが低下します」。標準化された対策の一つに、清掃場所に応じてクリーニングクロスを色分けする4カラーシステムがあります。「衛生施設では赤いクロス、教室やオフィスでは青いクロス」のようにクロスを使い分けすることで、病原菌等の混合や拡散を防止できます。またフロアの清掃にはモップを各部屋に1本用意し、使用後は洗濯機で洗います。

「新しい方法を従業員にわかりやすく伝えるために、清掃方法を記載したカードや動画など様々な資料を用意しました。こうすることで、清掃員は清掃の重点ポイントを一目で把握できます」とクーンは語ります。このような手順の標準化により、清潔・衛生レベルの向上だけでなく清掃時間の30%短縮が見込まれます。

## 新たに注目される デジタルソリューション

衛生対策を可視化するにあたり、デジタル化は重要なテーマです。最新のシステムを使いデータを取得することで、「いつ」「どこで」清掃が行われたかを管理・記録できます。「これまでの清掃ソリューションは主に生産性と効率性の向上が目的でしたが、今は清掃の質に重点が置かれています」とマイヤーは語ります。

こうした昨今の変化に対応するために、清掃員に適切な清掃機器を与え、作業中の健康や安全を確保する必要があります。また入れ替わりが激しい現場でも、清掃員が必要な知識を習得し、衛生対策を効果的に実践できるよう配慮する必要があります。マイヤーは次のように述べます。「トレーニングやコンサルティングサービスに加え、現場ごとに標準化された清掃対策の視覚的資料の重要性が増しています。結局のところ、私たちの健康や安全は、清掃を行う人々の誠実な努力の上に成り立っているのです」。



# KÄRCHER



搭乗式床洗浄機  
B 110 R Bp



コードレスカーペットリンスクリーナー  
Puzzi 9/1 Bp



アップライトクリーナー  
CV 30/1 Plus



フレキシメイト  
FM ExpertPro 100/P

幅広い清掃スタイルを提案  
業務用4製品を新発売

NEW